

平成30年度 卒業式式辞

弥生三月、季節が変わり春の訪れを感じさせる、今日のこの佳き日。本校同窓会・副会長の長岡 正彦 様、PTA 会長の渡邊 弘章 様、そして3年前、卒業生に入学を許可した・前校長の寒河江 茂様をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席のもと、お心のこもった暖かい雰囲気の中で、ここに山形県立上山明新館高等学校第26回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、私たち教職員にとりましてこの上ない大きな喜びであります。誠にありがとうございます。

また、喜びの日を迎えられた保護者の皆様、この学び舎での高校生活を経て、逞しく、頼もしい若者に成長したお子様の晴れやかな姿を前に感慨もひとしおのことと思います。心からお祝い申し上げます。そして、ただいま卒業証書を授与した247名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。皆さんは、高等学校の教育課程を無事・終了し、本日、卒業という栄誉を手にすることができました。高等学校を卒業するということは、一人ひとりがたゆまぬ努力を積み重ねてきた結果であることは言うまでもありません。しかし、これまで皆さんの成長を願い、見守ってこられたお父さん、お母さんをはじめ、ご家族の方々から、愛情いっぱい育てられてきたこと。また、学校の先生、友達、部活動の先輩・後輩、地域の方々など、多くの人たちの励ましや支えがあって、今があることを忘れないでください。

卒業を機に、これまで生活を送ってきた家を出て、親元を離れる人もいるでしょう。この人生の中での大きな節目にあたり、皆さんの成長を支えてくださった方々に、是非、自分の言葉で感謝の気持ちを伝えてください。そして、自分の夢を実現させることで、今まで自分を支えてくださった多くの人たちの気持ちに、応えてください。

今、皆さんはどのような思いの中にいますか。「ここまでの高校生活を振り返ったり」、「今日を迎えたことに・ほっとしたり」、「すでに明日からの新しい生活について考えたり」していますか。

上山明新館高等学校での生活は、たくさんのこといろどに彩られ、成り立っていました。「毎日、一つひとつ積み上げた授業、その中で得ることができた、多くの気づきと学び」、「学年を超えて仲間とともに励んだ部活動」、「クラスメイトと心をつなげて取り組んだ体育祭や麗明祭などの学校行事」、「たくさんの温かい心に出会えたボランティア活動など」。そ

して、それら活動の成果として、県大会や東北大会、全国大会など、晴れの舞台での活躍もありました。時には、戸惑いや悩み、重い足取りで教室に向かった時も、あったことと思います。立ち止まってしまった時や、もう進めないのでは、と思った時も、あったかもしれません。たどった道のりも、かかった時間も異なり、決してひとくくりにはできないそれぞれの高校生活がありました。それでも、「大変なことがあるからこそ、楽しいことや嬉しいことがある。楽しいことがあるからこそ、大変なことや辛いことも頑張れる。」というように、歩みは様々ですが、そこには、それぞれたくさんの思い出が、ぎっしり詰まっています、その結果として今日の卒業があるのです。誇らしく、自信を持って、巣立ってほしいと思います。

ここで、新たな生活に旅立つ皆さんに、餞の言葉として大切にしてほしい「二つの心」について話をしたいと思います。

まず、一つ目は、「学び続ける心」です。これから皆さんを待ち受ける社会は、かつてないスピードで変化しています。約20年前に普及した携帯電話は、程なくして、スマートフォンに変化し、今や小学生でも持つようになりました。スーパーマーケットでは、自ら精算機にバーコードを当てて支払う時代です。現金を持たない、キャッシュレスの時代にもなりました。今後は、道路に、無人のバスやタクシーが走り、飲食店では機械やロボットがサービスする、そんな時代もそう遠くはなさそうです。また、街を見ても、多くの外国人の姿を見かけ、店先では外国語で対応する様子も、見られるようになりました。今後ますますスピードをあげて、仕事も生活もグローバル化が進んでいくことでしょう。

このように次々と新しいことが生まれ、変化する社会に適応するためには、これまでの学びで培った、ものの見方や考える力を土台に、その都度、新しい知識が必要となるのです。ぜひ、皆さんには、社会の流れを感じながら、仕事はもちろんのこと、日常生活においても、積極的に「学び続ける心」を持ち続けてほしいと思います。

二つ目は、「人と繋がる心」です。皆さんは、この三年間で、先生、友達、先輩・後輩、そして地域の方々など、実にたくさんの人と関わってきました。そして、時間と場所を共有し、多くの思い出や人間関係をつくり、心を豊かにしてました。これからも様々変化する社会の中で、次々と「新しい人達」との出会いがあり、繋がっていかなくてはなりません。出来事には「新しい事柄や物」だけではなく、必ず、人が関わり、人と繋がることから始まるからです。直接、相手との会話を通して、気持ちの良い挨拶ができる、自分の考

えを伝えることができる、ひとの気持ちに寄り添うことができる、といった「人と繋がる心」が多くの仲間との出会いや感動を生み出し、自らの世界を大きく広げてくれるに違いありません。また、「人と繋がる」ことは、地域社会と繋がることでもあります。皆さんは総合の時間に、「ソーシャルデザイン活動」で、郷土の魅力について理解を深め、地域の課題と活性化について探究してきました。皆さんには、一層社会に関心をもち、自立した一人の社会人として地域の創生に貢献し得る人材となり、大いに活躍することを期待します。

皆さんのこれからの進む道は、一人ひとり異なります。進学、あるいは就職と進む道はそれぞれです。皆さんの中に同じ顔が二つと無いように、これからの人生も同じものは決してありません。ただ、共通することは、この上山明新館高等学校で学び、高校生活を送ったということです。それをお互い誇りに思い、新たな環境においても、皆さんの高校生活を力強く支えてくれた、校訓「日々新たに、又、日に新たなれ」に思いを馳せ、「学び続ける心」、そして、「人と繋がる心」を大切にし、「逞しく生きていくこと」を心から期待いたします。

まだ寒さが続いています。確かな春の足音はすぐそこまで来ています。あと、1ヶ月もすれば、「蔵王の麓^{ふもと}から薫^{かお}る、爽やかな風」が学校を包み、山々の若葉が茂ります。そして、皆さんが新しい環境で心を新たにしている頃には、その門出を祝福するかのよう校庭の桜が花を満開に咲かせることでしょう。

結びになりますが、これまで暖かく卒業生を見守り、本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力をいただきました保護者の皆様・ご家族の皆様、そして、常にご支援をいただき、本校にお心を寄せていただいております皆様方に、改めて心から御礼を申し上げます。

間もなく平成の時代の幕がおります。この平成の時代に生まれ、育ち、次の新しい時代に生き抜く、卒業生の皆さんが、元気に、さわやかな笑顔で、はつらつと活躍され、幸多からんことを願い、式辞といたします。

平成31年 3月 1日

山形県立上山明新館高等学校長 阿部 孝